

- 問1 円安が進んだとき、海外での売上を日本円に換算した際の受け取り金額が増加し、利益を得やすくなるのはどのような企業ですか？
- 問2 日本銀行が日本で唯一発行を許可されている、紙幣（日本銀行券）を発行する銀行としての役割を何という？
- 問3 民間銀行の経営が行き詰まった際、日本銀行が資金を貸し出すことで連鎖倒産を防ぐ役割を何という？
- 問4 経済全体でモノの値段が継続的に上がり、貨幣の価値が相対的に下がってしまう現象を何といいますか？
- 問5 円安になることで利益が増えやすくなる、海外へ製品を販売している企業を何という？
- 問6 日本銀行が景気調整のために市中銀行との間で行う、債券の売買による金融政策を何という？
- 問7 日本銀行が景気や物価を安定させるために、金利の調整などを行う経済上の取り組みを何という？
- 問8 円高になると、原材料や商品を海外から安く仕入れられるため、経営にプラスの恩恵がある企業を何という？
- 問9 継続的に物価が下がり続け、相対的にお金の価値が上がってしまう経済状態を何という？
- 問10 お金に余裕がある人から、必要としている人へ資金を融通する仕組みを何という？
- 問11 日本銀行が物価を安定させ、経済を円滑に動かすために、金利の操作などを行って調整することを何といいますか？
- 問12 円安によって海外からの資源や食料品の購入コストが引き上げられ、家計に負担をかける要因となる経済現象は何ですか？
- 問13 日本銀行がかつて金融政策の手段として用い、市中銀行への貸出金利の基準としていた金利を何という？
- 問14 物価が継続的に上昇する中で、消費者が自分の持っているお金でどれだけのモノを買えるかという力を何といいますか？
- 問15 景気の悪化やデフレからの脱却を目指し、市場への資金供給を増やす政策を行う中央銀行を何という？
- 問16 外国の通貨に対して、日本円の価値が相対的に上がることを何という？
- 問17 市場の需給によって為替レートが変動する仕組みを何という？
- 問18 景気が悪化している際に、日本銀行が国債を買い入れて市場に資金を供給することで下げようとするものは何？
- 問19 銀行同士が資金を貸し借りし、経済活動を円滑に進めるために行われる仕組みを何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 輸出企業	円安になると、海外で商品を販売して得た外貨を日本円に替えた際、以前より多くの日本円を受け取ることができます。そのため、自動車メーカーや電機メーカーなど、海外での売上比率が高い輸出企業にとっては、業績が向上する追い風となります。
問2	答え 発券銀行	日本銀行は日本で唯一の「発券銀行」として、日本銀行券を製造・発行する権限を持っています。私たちの手元にあるお札はすべて日本銀行から供給されており、信用ある通貨として全国で通用しています。
問3	答え 最後の貸し手	民間銀行同士でも資金の貸し借りができない異常事態において、日本銀行が資金を貸し出すことで破綻を回避させます。これが「最後の貸し手」としての機能です。この存在があることで、預金者は安心して銀行にお金を預け続けられます。
問4	答え 通貨	インフレーションが起こると、同じ金額のお金で買えるモノの量が少なくなります。これは裏を返せば、お金そのものの価値（購買力）が低下していることを意味します。モノの値段が上がれば上がるほど、相対的にお金の価値は小さくなってしまいます。
問5	答え 輸出企業	円安になると、海外で販売する製品を同じドル価格で売ったとしても、日本円に換算したときの売上高が増えます。また、価格を下げて販売しやすくなるため売れ行きも良くなり、自動車や電機などの輸出企業にとっては追い風となります。
問6	答え 国債	日本銀行が市中銀行から国債を買い入れると、銀行の資金が増えて市場のお金の流れが活発になります。逆に、日本銀行が国債を売ると、市中銀行の資金が日本銀行へ移動し、市場のお金の量が減る仕組みです。
問7	答え 金融政策	日本銀行が行う金融政策は、民間銀行が日本銀行から借りる際の金利を調整したり、市場に出回るお金の量を操作したりすることで、景気をコントロールします。金利を下げれば企業は投資しやすくなり、金利を上げれば景気の過熱を抑える効果があります。
問8	答え 輸入	円高になると、海外の商品を少ない日本円で買うことができます。これにより、燃料費や原材料費のコストが下がるため、輸入企業はコスト削減の恩恵を受けることができます。また、輸入品の価格が安くなれば、家計にとっても生活費を抑えられる効果があります。
問9	答え デフレーション	デフレーションでは、モノの価格が下がり続けるため、企業は売上が減少します。また、お金の価値が上がるため、消費者は将来の値下げを期待して買い控えを行い、さらなる不況を招く悪循環に陥りやすいのが特徴です。
問10	答え 金融	預金者からお金を預かり、それを企業や個人へ貸し出す銀行などの金融機関がこの仲介役を担います。お金の貸し手は利息を受け取り、借り手は事業や購入のために資金を得ることで、経済活動が活発になります。
問11	答え 金融政策	金融政策は、景気の加熱や不況に対処するための手段です。景気が良い時は金利を引き上げてお金の貸し出しを抑制し、逆に不況の時は金利を引き下げてお金の回りがしやすいように調整します。この操作によって物価を安定させ、経済が順調に発展するように支えています。
問12	答え 物価	円安になると、海外から輸入する品物の価格が日本円換算で高くなります。このコスト増を避けるために販売価格が引き上げられ、結果として国内全体の物価が上昇します。これが家計を圧迫する大きな要因となります。
問13	答え 公定歩合	日本銀行が公定歩合を引き下げると、銀行が日銀から資金を借りやすくなり、結果として銀行から企業や個人への貸出金利も下がるため、世の中に出回るお金の量（マネーストック）が増加します。逆に引き上げるとお金の流通量が減る仕組みです。
問14	答え 購買力	購買力とは、お金を使ってモノやサービスを購入する能力のことです。物価が上がると、これまでと同じ金額を払っても以前ほど多くのモノが買えなくなります。つまり、実質的な購買力が低下し、消費者は生活水準を維持することが難しくなります。
問15	答え 日本銀行	日本銀行は、日本で唯一の紙幣発行権を持つ「発券銀行」であり、「政府の銀行」として国庫金の出納を扱い、「銀行の銀行」として一般の金融機関へ資金の貸し出しを行います。景気が悪い時は金利を下げるなどして、世の中に出回るお金の量を増やす政策を実施します。
問16	答え 円高	円高とは、例えば「1ドル=100円」だったものが「1ドル=80円」になるような状態です。これは以前よりも少ない円で外国の製品を購入できることを意味します。
問17	答え 変動相場制	1973年以降、主要国は通貨の交換比率を市場の需給関係に応じて毎日、毎時変動させる変動相場制へ移行しました。これにより、各国の経済情勢や金利差、政治状況によって為替レートが柔軟に動くようになっています。
問18	答え 金利	日本銀行は国債を買い入れることで銀行の持つ資金を増やします。すると、銀行は貸し出すお金の余裕ができるため、企業や個人へのお金の貸し出しを促進しようと金利を下げます。金利が下がると借金がしやすくなるため、投資や消費が活発になり景気の回復が期待されます。
問19	答え 資金決済	日本銀行にある民間銀行の当座預金口座を使って、銀行同士の支払いを差し引き計算で精算します。これにより、大量の現金を持ち運ぶことなく、安全かつ確実に「資金決済」が行われます。この効率的な仕組みが現代の経済を支えています。